

2025 名古屋大学（前期）数学（理系）概評

出題分析		
試験時間 150 分	配点 点	大問数 4 題
分量（昨年比較）〔減少 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同程度</span> 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">易化</span> 同程度 難化〕
<p><b>【概評】</b></p> <p>文系との共通問題が2題あった分、昨年より易しくなった。          なお、文系との共通問題は3年ぶりである。          3年連続で出題されていた複素数平面からの出題がなくなった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	微分（関数の最大値）	(2)は $f'(x)$ が増加関数であることに着目し、 $g'(x) = 0$ がただ1つの実数解をもつことを示す。 $g'(x)$ の符号変化にも注意する。 (3)は $c = f'(x_0)$ を $x_0$ について解く。置き換えを利用するとよい。	標準
2	整数（不定方程式）	因数分解して素因数を振り分けるタイプの定型問題である。 $a + b$ と $a - b$ の偶奇が一致することに着目する。 (2)では $a + b$ と $a - b$ がもつ素因数 $p$ の個数を文字でおく。	やや易
3	積分（球の通過領域の体積）	(2)は「切ってから動かす」タイプの求積問題である。球を平面 $z = t$ で切った切り口の円の通過領域の面積を求めて、 $t$ で積分する。その面積計算で(1)が使える。	標準
4	確率（反復試行の確率）	(2)は答案を書くのが難しい。各コインが裏返るのが、どのコインを選んだときかに着目すると、各コインが選ばれるべき回数の偶奇が分かる。	やや難

## 2025 名古屋大学（前期）数学（理系）概評

### 合格のための学習法

名大は実力差が反映されやすい良問を多く出題するため、定型問題を多く解いて典型的な解法を身に付けておくことが重要である。また試験時間が長いため、論証力をつける訓練をしておこう。頻出分野に関しては、幅広い大学の問題を解いておくといよい。